

定住者を囲んで 三瓶地域で意見交換会

近年、Uターン者のニーズは複雑化・多様化し、定住先を決める理由やこだわりは千差万別です。大田市では、特に三瓶地域へのUターン者が増えている状況にあり、地域の皆さんの支援や受入れ体制も整い、良好な関係にあります。

このような中、今後の定住対策に向けて、地域や行政関係者が参加して、Uターン者を囲んで意見交換会を開催しましたので、参加者のコメントをご紹介します。



▶近年、大田市三瓶地域へUターンされた皆さんの内、6家族8人に参加していただき開催された意見交換会。
移住のスタイルは年齢や家族構成、人生の価値観や考え方など、それぞれ様々であることがわかりました。今後も地域一体となった定住支援をしていきます。

理想の家が三瓶にあった

松島 弘之さん(60代)

大阪府柏原市からUターン

定年後に描いていた田舎暮らしに向けて、住まいを捜していた。大田市にこだわってはいなかったが、たまたま理想とする家が見つかった。

大田市は、世界遺産・国立公園・温泉など何でもある素晴らしい町だと思う。

都会より田舎人間関係が癒し

清川 忠男さん(60代)

兵庫県神戸市からUターン

都会は知らない人ばかり、田舎は誰からでも声掛けられ親しみがあるのがいい。



▲思わぬ雪との戦いは辛い、地元はそれを楽しむことも生活の一部と言われ、驚いている松島さん

趣味の写真からコレクター品が増え、その展示が兼ねられる物件と、老後は田舎暮らしの夢の実現のため物件を探していた。空気の良い田舎へ住んで持病のアレルギーが治った。

自然の中で気持ちの良い生活

海藤 晃弘さん(30代)

由美子さん(30代)

千葉県柏市からUターン

震災以降、田舎への移住を考えた。地震や災害の少ない島根県への関心、神様も居る。水道水ではなく、自然の水が出る場所。三瓶の自然、人柄に気持ちが楽になった。

妻は、地元さんべ女子会での野菜栽培や活動に参加。自給自足と生まれてくる子どもを育てるには最適

な場所。

震災で人生のスタイルを変えた

梶谷美由紀さん(40代)

東京都港区からUターン

20年間東京で暮らして、田舎へ戻るなんて考えていなかった。震災以降、子どもの体調がすぐれず、帰省して回復したのがきっかけとなる。3人の子どもとUターン。夫とは別居生活だが、自然の中での子育ては最高。地元の方々の厚い手助けに感謝している。

関東には、同じ境遇で悩みを抱えている人は多いので、それが定住に結びついてくるといい。

ガスや水道の無い自然流を満喫

中山 義規さん(30代)

はるかさん(30代)

出雲市からUターン

青年海外協力隊などの活動で海外経験が長かった。とにかく人が居なくて農地があることが条件で物件を探した。人が住めそうでない物件を購入、薪や湧水で

の生活を楽しんでる。

サラリーマン時代の贅沢な生活から脱却。信じられないくらい質素で自然な生活は何物にもかえられない。



▶妻のはるかさんは広島県出身。脱サラから地域おこし協力隊で美郷町へ移住。価値観が同じ義規さんと偶然に出会い結婚。とても充実した日々を過ごしていると、中山さんは言う

縁の無い土地で広がる繋がり

中村 典子さん(40代)

大阪市からUターン

15年前に温泉津町へ陶芸の勉強でUターン。埼玉から桜江町にUターンしていた夫と出会い、住む家を探しているうち、三瓶の方から現在の家を紹介された。定住支援策のなかった頃だったけど、縁のない土地で色々な人の繋がりができているのが嬉しい。